

平成21～23年度 鹿児島県「学力向上」研究協力校

研究紀要

「確かな学力を育む指導法はどうあればよいか」
～基礎・基本の定着を目指して～



平成23年11月15日(火)

いちき串木野市立串木野西中学校

Ⅰ 研究の概要

1 研究テーマ

「確かな学力を育む指導法はどうあればよいか」
～基礎・基本の定着を目指して～

2 テーマ設定の理由

近年の社会の変化や科学技術の発展等を背景として、新学習指導要領でも引き続き「生きる力」の育成が強く求められている。中でも、学力の重要な3つの要素である「基礎的・基本的な知識・技能の習得」や「課題解決に必要な思考力・判断力・表現力その他の能力の育成」、「主体的な学習態度」からなる「確かな学力」の育成は喫緊の課題である。

本校でも、学校教育目標『自ら学び、豊かな心とやる気を持って行動する生徒を育成する』にあるとおり、これまで人間性豊かで心身ともに調和のとれた生徒の育成に取り組むとともに、「学力向上」を最大の目標として掲げ、「授業の充実」や「個に応じた指導の充実」、「家庭教育の推進」、「特別支援教育の推進」を実践の柱として取り組んできた。

本校の生徒は、明るく活動的で素直な生徒が多い。また、自らの目標をもち、コツコツと努力する生徒も見られる。しかし、全体的に学習に対する意欲が低かったり、授業や家庭学習への取組に温度差が見られるなどの実態に加え、「基礎・基本」定着度調査の結果が1、2年ともに半数以上の教科で県の平均通過率を下まわるなどの課題があった。

そこで、学習指導法の改善と充実に向けて、生徒の学ぶ意欲を喚起し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力等を育成していくことが、「確かな学力」の育成につながるものと考え、研究主題を「確かな学力を育む指導法はどうあればよいか」と設定し、研究を進めていくことにした。

3 これまでの研究の歩み

1年次 生徒の実態把握と課題解決のための取組

- ・ アンケートの実施 ・ 課題の明確化 ・ 少人数指導の充実
- ・ 家庭、地域、関係機関と連携した取組(ノーテレビ・ノーゲームデー、家庭学習60・90運動)

2年次 実践的な学習指導法の工夫、改善(共通実践項目)

- ・ 小テストの共通実践 ・ 学習形態の工夫
- ・ 授業づくり5ポイントの実践 ・ スキルアップタイムの実践

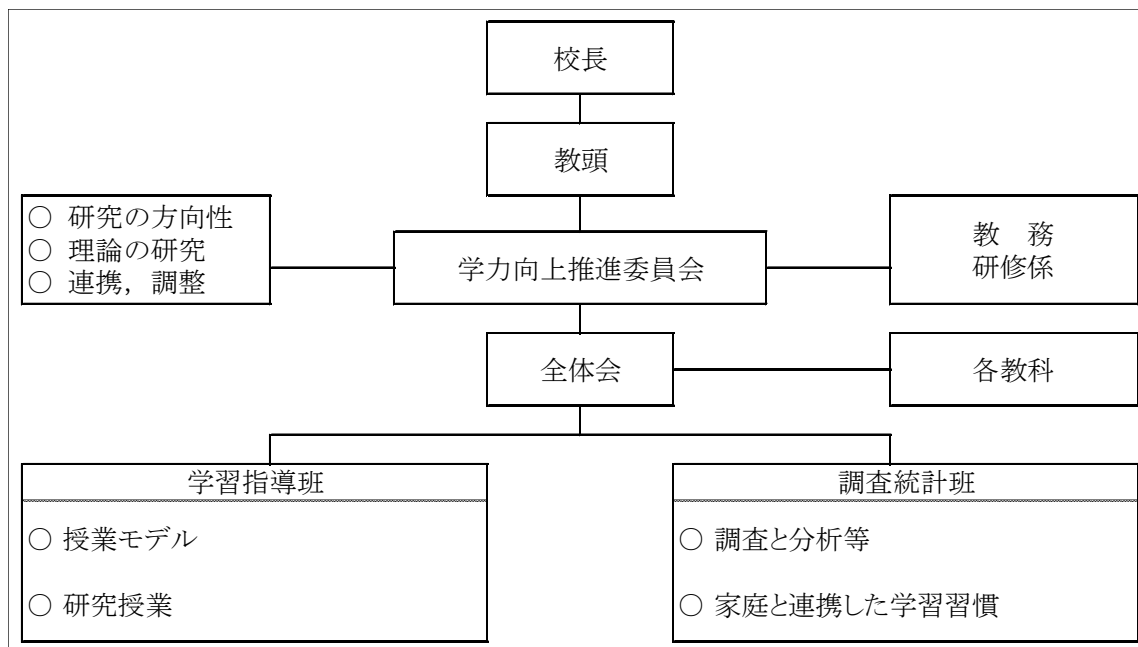
3年次 授業モデルの確立と実践、研究のまとめ

- ・ WESTメソッドの実践
- ・ 研究のまとめ

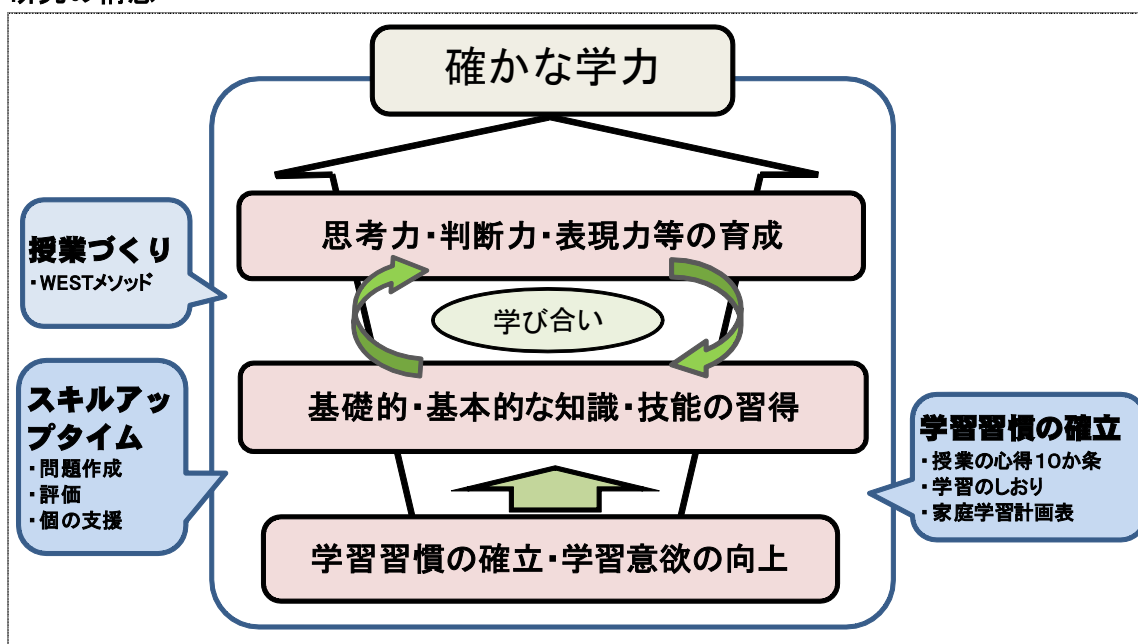
4 研究の重点

- (1) 学習習慣の確立と学習意欲の向上のための取組
- (2) 学力向上を目指した授業づくり
- (3) 生徒個々の基礎的・基本的な力を高めるための取組

5 研究の組織



6 研究の構想



II 研究の実際

1 学習習慣の確立と学習意欲の向上のための取組

(1) 授業の心得10か条の活用

生徒のアンケートから、生徒たちが授業に臨む際、「チャイム着席ができていない」「忘れ物をする」等の問題が挙げられた。そこで、授業に臨む上での心得を示した「授業の心得10か条」の見直しと作成を行ってきた。この「授業の心得10か条」の指導と見届けについては、職員共通して行ってきた。これに加え、生徒会活動でも授業前のチャイム着席点検と忘れ物点検に重点を置き、呼びかけと点検を行ってきた。この生徒会活動での点検結果は、生徒朝会で報告を行い事後の指導や生徒の意識化が図れるようにしてきた。その他にも、生徒会活動では、毎朝の朝読書でも、放送による呼びかけと各学級学習班と連携した点検活動を行い、よりよい一日の始まりになるように雰囲気づくりをしてきた。



【授業の心得10か条】

(2) 学習のしおりの活用

生徒には、例年「学習のしおり」を使って授業のオリエンテーションを行っている。オリエンテーションの中では、授業の進め方や留意点をはじめ、家庭学習で行う予習・復習の仕方や補助教材の活用の仕方等具体的に指導してきた。また、生徒の授業中の成果や宅習の取組について具体的な例を各教科で掲載し学級で紹介することで生徒へ意識させたり参考にさせたりしてきた。

この「学習のしおり」は、毎年各教科で前年度の反省点を生かしたり生徒の実態等を考慮したりしながら見直しを行い、次年度の指導へ生かしている。

(3) 家庭学習の習慣化に向けての取組

各教科では、これまで上記に示した「学習のしおり」を使って、具体的な家庭学習の仕方と内容を指導してきた。また各学級では、家庭学習の習慣化に向けて「生活の記録」への学習内容と時間の記入、見届け、宅習帳の点検を行ってきた。さらに定期テストに向けて学習計画表（「計画を乗り越えろ」）を作成させ、家庭学習に取り組ませてきた。この計画



国語科

- 1 学習のねらい

どこの誰にも書語があり、それを使って日々の生活をしています。ですから自分の気持ちや相手に正確に伝え、相手の考えをよりよく理解するために「書語」は、私たちのためにも正しく美しい日本語を学びたいものです。

そのために次のことを心がけましょう。

 - (1) 相手のことを理解し、よい点を学ぶつもりで聞きましょう。
 - (2) 書いてある内容を理解し、必要な情報を取捨選択し、活用できるようにしましょう。
 - (3) 漢字や文法は繰り返し練習して、自分のものにしましょう。
 - (4) 自分の考えや気持ちを正しく書くと話せるようにしましょう。
- 2 予習の仕方
 - (1) 読めない漢字（新出漢字）や意味のわからない語句（注釈する語句）について、国語辞典や漢和辞典を使って調べておこう。
- 3 授業の受け方
 - (1) 友達の話や先生の説明をよく聞き、自分の考えをもとう。
 - (2) 気づいたことや考えたことを、自分の言葉で発表できるようにしよう。
 - (3) 疑問点については質問し、その夜までしておかないようにしよう。
 - (4) 板書事項だけでなく、先生の話の要点もきちんとノートをとるようにしよう。
- 4 復習の仕方
 - (1) ノートを読み返し、授業の内容を思い出しながら、教科書を確認しよう。
 - (2) その日に覚った漢字は、漢字帳などに書いて覚えよう。
 - (3) ワークを使って復習しよう。教材が終わることにしっかり解こう。
- 5 その他
 - (1) 読書のすすめ

文書にふれることによって、知識や想像力、感性が豊かになっていきます。また、読書が豊かになると、人生を豊かにするためのにも、どんどん本を読みましょ。朝読書の時間も積極的に読書しましょう。
 - (2) 漢字の学習

「漢字の学習」を使って学習しましょう。1～2週間にも一回漢字テストをします。合格できるように頑張ろう。また、漢字帳でも覚えよう。卒業前までに3級合格できるように挑戦してみよう。

【学習のしおり】

表には、「自分の目標（目標得点と家庭学習を進める上での3つの約束事）」「日々の学習計画と実践できた内容の振り返り」を書かせ、定期的な見直しと支援を行ってきた。生徒の目標での3つの約束事では、「学習時間」「自分で決める約束事」「保護者に協力してもらう約束事」の3点を、生徒自身に考えさせることで、個に応じた無理のない学習計画が立てられるようにした。またテスト終了後には、自己反省を書かせることで自分の学習状況を振り返ったり、保護者からもコメントをもらうことで、家庭との連携を図ったりして、事後の家庭学習にもつなげられるようにしてきた。その他にも、教師からのコメントも添えることで、生徒の努力を賞賛したり、事後の学習へのアドバイスをしたりして、学習意欲が高められるようにした。

また、各家庭の家庭学習への意識を高めるために、「ノーテレビ・ノーゲームデー」についての意識調査も継続して行ってきた。その際、毎回の調査用紙を1枚の調査用紙に継続して記入できるようにすることで各家庭が変容に気づき、意識できるように工夫した。

更に、調査結果をPTA等で示し、各家庭での家庭学習の習慣化、90分の時間確保（「家庭学習60・90運動」）に向けての協力を求めてきた。

我が家の「ノーテレビ・ノーゲームデー」の実践報告
(保護者記入)

()年 ()月 ()日

結果記録 実施できた日数と内容を記録してください。(内容は複数可)

第1回 平成23年 6月13日(月)～13日(日)
(2年生 6月20日(月)～26日)
()0日間 ()1日間 ()2日間 ()3日間
()4日間 ()5日間 ()それ以上
()勉強 ()読書 ()家族だんらん ()遊び その他()

第2回 平成23年10月 3日(月)～10月10日(月)
()0日間 ()1日間 ()2日間 ()3日間
()4日間 ()5日間 ()それ以上
()勉強 ()読書 ()家族だんらん ()遊び その他()

第3回 平成23年11月14日(月)～11月20日(日)
()0日間 ()1日間 ()2日間 ()3日間
()4日間 ()5日間 ()それ以上
()勉強 ()読書 ()家族だんらん ()遊び その他()

第4回 平成24年 2月 6日(月)～2月12日(日)
()0日間 ()1日間 ()2日間 ()3日間
()4日間 ()5日間 ()それ以上
()勉強 ()読書 ()家族だんらん ()遊び その他()

【ノーテレビ・ノーゲームデーの意識調査】

「計画」を乗り越えろ！ 名前()

目標点歌

国語	数学	理科	社会	英語	音楽	美術	技家	保健	合計
80	50	60	80	70	65	90	75	90	660/900

目標を達成するために！私の3カ条！！

その1 学習時間：平日()時間×8日+週末()時間×5日=計()時間

その2 勉強時間を確保するために：

その3 家族に協力してもらうルール：

目標点歌

国語	数学	理科	社会	英語	音楽	美術	技家	保健	合計
80	50	60	80	70	65	90	75	90	660/900

目標を達成するために！私の3カ条！！

その1 平日は1時間以上、週末は1時間30分以上

その2 午後8:30～9:00には勉強を止める。

その3 子どもの勉強中に親は読書をする。

(自分の目標)

日付	予定	学習計画		実際に行った学習		総時間	担任 チェック
		教科	学習内容	教科	学習内容		
6/9 (木)		社会	プリント 葉検	社会	プリント 葉検	20/30	
		英	英検(英)	英	P2.P3(英)	10	60
6/10 (金)	漢字検定 英語検定	理音	丸.ハ 教科書	音英	教科書 教	45/15	120
		英	英(英)				

(学習計画と実践記録)

約束の達成度(5段階評価)	(テスト期間を振り返りの反省課題)	達成率 (%)
その1 4	今回のテストはがんばるうと思て、いつもより勉強しました。	75%
その2 3	今後は苦手教科、英型をがんばりたいと思います。	
その3 2	【保護者より一言】本人は頑張ると言っているが、勉強のやり方がまだうまく理解できていないところ。少しかけて満足するのは、目標を達成して満足してほしいです。	

(自己反省と保護者コメント)

【学習計画表(計画を乗り越えろ)】

2 学力向上を目指した授業づくり

(1) 授業モデルを生かした取組

本校では、確かな学力を育むために、これまで授業づくりの改善に取り組んできた。その中で、「小テストの実施と工夫・改善」「めあてとまとめを明確にする授業」等実践してきた。その基盤としては、いちき串木野市が示す「学力アップのための授業づくり5ポイント」を基にした授業づくりを行い、校内研修でも定期的に研究授業・授業研究を行ってきた。この取組における成果と課題を踏まえ、基礎・基本の定着を目指し、確かな学力を育むとともに本校生徒の実態に即した授業改善を行うために、共通実践項目として授業モデル(WESTメソッド「西中方式」)を作成し、各教科で実践と改善に取り組んできた。

生徒の実態で「お互いに学び合うこと」が課題としてあげられたことから、授業の展開で自分の考えをもつ場面(Explore)と自分の考えを広げる場面(Spread)を分けて設定した。また、「前時を振り返り、学習の見直しをもたせる場面(Wake up)、と振り返る場面(Turn)」を取り入れ、家庭学習や小テストにつなげることで、学習意欲の向上や基礎・基本の定着につながると考えた。その活動に加え「課題を把握させる」「自分の考えをもたせる」「表現させる」学習活動を展開する上で、各教科工夫した取組を行うことで、思考力・判断力・表現力等の育成にもつながると考えた。

それぞれの場面で充実を図るために各教科で取り組んできた状況は、お互いの教科で参考にしたり、今後の取組につなげたりした。

学力向上を目指したWESTメソッド(授業モデル)			
学習過程	学習活動	生徒の姿	
導入	Wake Up 目覚める	⇒小テスト ○前時の定着を確認する ⇒課題の意識化 ○学習課題・本時のゴール(めあて)をつかむ ・疑問や驚きをもつ ・願いやあこがれをもつ ・何ができるようになればよいのか分かる ・できそうだという予感がする	・不思議だな ・やってみよう ・これができればいいんだ
展開	Explore 探究する	⇒課題解決に必要な情報の取り出し ○文章・情報・グラフ・データ・図表・記号・資料・心情を読む、観察する、感じ取る、見る、聞く ・解決の見通しをもつ・解決の方法を考える ・学習計画を立てる ⇒自分の考えをもってやってみる ○「自分から」「自分でやってみる」 ・既習事項を生かす・調べる・試してみる	・つかえそう ・できそう ・このように進めよう ・これでいいかな ・やってみよう ・ためしてみよう
展開	Spread 広げる	⇒考えを比べ、深める・広げる ○自分の考えを伝える、友達の考えを聞く ・考えの共通点、相違点に気づく ・他の考えを検討し、共有する ・自分の考えを見直し、修正する ・再度やってみる	・みんなの考えが分かった ・自分の考えもいいな ・分かった・できた ・もっといい方法はないか
終末	Turn 振り返る	⇒学習の振り返りと変容の自覚 ○めあてについて振り返り、学んだことをまとめる ・自分の達成度・理解度を判断する ・学んだことを生かそうとする ・自分に必要な学習を選択する(復習・活用・発展) ⇒家庭学習とのつながり	・～ができるようになった ・～を復習しよう ・この考えは他教科で使えるな

学習意欲の向上

考えを深め広げる

成就感・振り返り

【共通実践授業モデル(WESTメソッド)】

【WESTメソッドの概略】

- Wake up : 小テスト等で前時の学習を振り返り、明確な学習課題から、本時の学習の見直しをもたせる場面
- Explore : 情報を読み取ったり、自分の考えをもとに試したりする等の活動から、自分の考えを構築していく場面
- Spread : 自分の考えを伝えたり、他の考えを聞く等の「学び合い」を通して、お互いの考えを広げ深める場面
- Turn : 本時の学習内容を振り返り、一般化したり、家庭学習や確かな定着につなげたりする場面

【各教科でのWESTメソッドの取組】

	Wake Up (目覚める)	Explore (探究する)	Spread (広げる)	Turn (振り返る)
国語	○詩の暗唱・絵本の朗読・時事に関する話をする中で、興味・関心をもたせる。 ○漢字テストや漢字クイズ等を取り入れ、基本的事項の定着を図る。	○辞書を使った意味調べ・漢字調べを行うことで、語彙力をつけさせる。 ○感想や疑問をもつことで、課題解決に向けた自分の意見をもたせる。	○ペア・グループ・全体での発表を行わせる。 ○ペア・グループによる話し合いにより、意見を練り合わせ一本化させる。	○まとめを自分で考えさせる。場合に応じて発表し合い理解を深めさせる。 ○ワーク整理や5分間テストを活用し、本時の学習内容を振り返らせることで学習事項を定着させる。
社会	○5問テストで前時の復習をさせ、本時の学習に意欲をもたせる。 ○新鮮でタイムリーな資料を提示し、興味・関心を高めるようにする。	○様々な資料を用い、情報を読み取る力を身につけさせる。 ○図、グラフ、表等課題に合った資料を作成できるようにする。	○資料等から読み取った情報をまとめ、発表できるようにする。 ○作成した図、グラフ、表等の内容を把握し、精選して発表できるようにする。	○板書事項で学習内容を振り返り、自ら本時の評価ができるようにする。 ○テスト対策プリントを活用し、学習への意欲を高める。
数学	○小テストの実施(習熟度に応じ、前時の内容や復習問題)をし、興味・関心を高めるようにする。	○既習事項をもとに、解き方や考え方を推測させる。 ○例題や問いに取り組み、力をつけさせる。	○他の考え方がないか、身の回りのどのような場面で使われるか考えさせる。 ○図形の分野では、ペア・全体での発表を行わせる。	○学習したことを公式等でまとめさせる。 ○ワーク等を用いて反復練習を行うことで本時を振り返らせ、理解を深めさせる。
理科	○小テストでは、前時の学習を振り返らせ、本時の学習に関連付けられるようにさせる。 ○事象提示を行いより明確な学習課題につなげ、見通しをもたせる。	○予想を立てたうえで、観察・実験を行わせる。 ○観察・実験は、個又はペアで行わせ、マイデータを持たせ、自分の考えを構築できるようにする。	○ペア、班での発表を行うことで、お互いの意見を練り合わせ吟味させる。この際、必要に応じてホワイトボードやモデルを利用させる。	○学習内容を一般化しながら、本時の学習内容を振り返らせる。 ○授業の感想を書かせる等して、自己の変容に気付かせる。
英語	○小テストでは前時の学習の定着を確認できるようにする。(単語・基本文・ディクテーション) ○帯学習を取り入れ、基礎・基本事項の定着をさせる。	○ペア・グループによる助け合い学習をさせる。 ○辞書や資料を用いて、読んだり、書いたりできるようにする。	○ペア・グループ・全体で発表活動を取り入れ、大切なことを強調させたり、繰り返させたりするなど相手に伝える工夫をさせる。	○自己評価カードを用いて授業の振り返りや家庭学習の計画・評価をし、授業と家庭学習の系統性をもたせる。
音楽	○小テストで音楽を構成している様々な要素について振り返らせる。 ○楽曲にふれ、本時の学習課題につなげる。	○表現したいイメージをもち音楽表現を工夫させる。 ○ペアやグループによる話し合いの場面を設け、音楽表現を練り上げさせる。	○生徒同士の間発表や相互評価の場面を設け、お互いの演奏を聴き合いながら、更なる工夫につなげさせる。	○本時の学習を振り返り、評価カードに記入をさせることで、自己や音楽表現の変容に気付かせる。
美術	○静物や人物クロッキーなど短時間(5分程度)で行うデッサンをさせる。 ○身の回りのデザインの造形美や特性を考えさせる。	○単純化のデザインや言葉遊びによる絵合わせ、鑑賞活動をペアやグループを使い行わせる。	○マンガやアニメーションなどを活用し、自らのアイデアを練り、グループでの活動をさせる。	○授業の中で、気づいたことや感じたことを自分の言葉でまとめさせ、本時の学習を振り返らせる。
保健体育	○全体のめあてを確認し、個人のめあてをもたせる。 ○単元に合わせた体づくり運動をさせる。	○自分の課題の解決方法や技術向上の方法を反復練習を通して探究させる。 ○気付いたポイントなどは黒板やカードに書かせる。	○チーム・グループでの学び合い、教え合いを通して、自分の力を試させ、新しい課題をもたせる。	○学習カードに自己評価をさせ、自分の頑張りや変容に気付かせる。 ○感想を交流し、次への意欲を高める。
技術家庭	○教材・教具を利用することで、これから学習する内容に興味をもたせ、課題を明確にさせる。 ○前時の内容を振り返らせ、本時の学習に関連付けられるようにする。	○課題解決のために個人で試行錯誤させ、発見したことを自分の言葉でまとめさせる。 ○ペア・グループによる助け合い学習をさせる。	○自分でまとめた考えを、ペア・グループ・全体で発表し、お互いの意見を練り合わせさせる。	○学習内容を振り返り、本時の評価を行わせる。 ○授業の感想をまとめさせ、自己の変容に気付かせる。

【実践例 1：理科】

第1学年 光の反射（単元名「身のまわりの現象」）

1 本時の目標

鏡の像の映り方に興味・関心を持ち、鏡に自分を映すとき、半分の大きさの鏡で全体が映ることを実験で確かめたり、光の反射の法則を用いて説明したりすることができる。

2 授業づくりの工夫

(1) 自分の考えをもたせるための工夫(Explore)

小テストで行う光の反射の法則の復習の中で、本時の考察の場面で自分の考えを構築する際のヒントとなる作図をさせる。また、実験はペアで行わせ、それぞれに自分のデータ（マイデータ）をとらせることで、そのデータから自分の考えを導き出せるようにする。

(2) お互いに学び合い、考えを深めるための工夫(Spread)

学び合いの場面では、グループ内でお互いの考えを説明しやすいように、図を用いながら発表させる。その際、ホワイトボードを利用することで、お互いの考えを共有しやすくしたり互いが指摘し合えたりできるようにする。

3 本時の実際

過程	時間	形態	学習活動	
Wake up (目覚める)	10分	個 ペア 個 個	はじめ	
			復習 1	1 小テストをする。
			事象提示 2	2 手鏡に自分の顔全体を映す方法を考える。
			課題設定 3	3 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">顔全体を映すにはどれくらいの長さの鏡が必要だろうか。</div>
Explore (探究する)	25分	ペア 個	予想 4	4 予想をする。
			実験 5	5 実験をする。
			補説 7	
			確認 6	
Spread (広げる)	10分	班	考察 8	8 実験結果をもとに作図して考える。
			発表 9	9 互いの意見を発表する。
Turn (振り返る)	5分	全体	まとめ 10 おわり <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">鏡全体に顔を映す場合、顔の半分の長さの鏡でよい。</div>	

Wake up(目覚める)



小テストで光の反射の法則を振り返らせ、本時の考察の場面にもつなげられるようにした。

【小テスト】



事象提示では、個々に実験させ、課題を明確にすることで見通しをもたせた。

【事象提示】

Explore(探究する)



実験では自分のデータを取らせ、考察に生かせるようにした。

【実験】



小テストも参考にしながら作図させ、理由を考えさせた。

【考察】

Spread(広げる)



グループ内でお互いの考えを発表させ、吟味させた。また、それをもとに全体の発表の場面につなげさせた。

【発表(グループ→全体)】

Turn(振り返り)



全身鏡等本時の学習と身近な事象とのつながりを示し、一般化した。

【一般化】

【実践例2：技術】

第1学年 4節リンク機構(単元名「エネルギーを変換して利用しよう」)

1 本時の目標

4節リンク機構の可動域を広げる方法を考え、自作のモデルに修正を加えることができる。

2 授業づくりの工夫

(1) 自分の考えをもたせたり工夫させたりするための工夫(Explore)

製作活動では、グループ活動を取り入れ、他の生徒の作品の工夫点を参考にすることから、自分の考えをしっかりとったり、新たな方法を考えたりできるようにする。

(2) 製作過程で容易に修正でき、多くの方法が試行できるようにするための工夫(Explore・Spread)

4節リンクのモデルの素材に厚紙を用いることにより、製作過程で容易に自分の作品に修正を加えることができ、生徒が考えた多くの方法が試行できるようにする。

3 本時の実際

過程	時間	形態	学習活動
Wake up (目覚める)	10分	全体	1 前時の復習をする。 2 本時の課題を確認し、解決方法を考える。 3 製作活動上の留意点を聞く。
Explore (探究する)	15分	個班	4 製作活動を行う。 4節リンクに修正を加え、可動域を広げる。
Spread (広げる)	18分	班 全体	5 他の生徒の製作の様子や、できた作品を見ながら、新たな方法を考える。 6 発表する。
Turn (振り返る)	7分	全体	7 本時を振り返る。

Wake up(目覚める)



モデルを使って前時の4節リンクについて復習させた。

【4節リンクの復習】



自分のモデルと比較しながら、本時の課題を確認させた。

【課題確認と予想】

Explore(探究する)



自分のモデルを使って、修正を加えさせた。

【モデルの修正】

Spread(広げる)



班員の作品を見たり、説明を聞いたりして、新たな方法を考えさせた。

【班での意見交換】



見つけ出した方法を、モデルを使って発表させた。

【モデルを使って発表】

Turn(振り返り)



4節リンクと身近な例について触れ、本時の学習を振り返らせた。

【学習内容を一般化】

(2) 少人数指導

本校では、数学科と英語科で少人数指導を行っている。それぞれの教科での取組については以下のとおりである。

【数学科】

数学科では、標準コースと基礎コースの2コースを設定して少人数指導に取り組んでいる。コース決定については、授業はじめのオリエンテーションで、開設コースの進め方や目的の説明を行い、その後生徒と保護者の希望及び学力検査の結果をもとに必要なに応じて個人面談を行い、総合的に判断して決定している。

両コース共に、副教材とその取扱い、評価等で教科で共通した取組を行っているが、授業の内容では、それぞれのコースで特色をもたせている。標準コースでは、教科書の練習問題を中心に学習を進め、小テストや演習で高校入試問題等にもチャレンジさせている。できない問題に対して、お互いの学び合いの時間を設け、意欲付けにしている。基礎コースでは、教科書の例題を中心に学習を進め、小テストでは四則演算や前時の復習等を中心に行うなど、より基本的な内容に取り組ませている。また、基礎コースは標準コースよりも若干人数を減らすことでより個に応じた細かな支援ができるようにしている。家庭学習の習慣化に向けて、両コース共に数宅にも取り組んでいる。この数宅では、習熟度や希望に応じた問題を課す等個々に応じながら取り組ませている。

【英語科】

英語科では、集団の中で、コミュニケーション活動等を通してお互いに学び合い助け合うことで力を伸ばすことを目的の一つとして少人数指導を行っている。

少人数指導には、「生徒の発言の機会を増やせる」「生徒のニーズに応じやすい」「見届けがしやすい」等のメリットが挙げられる。本校の英語科では「音読の機会、教師の質問への受け答えの機会、ペアやグループでの活動で生徒個々の発言の機会を増やすこと」それに対する「生徒個々の細かな支援と見届け」を重点的に取り組んできた。

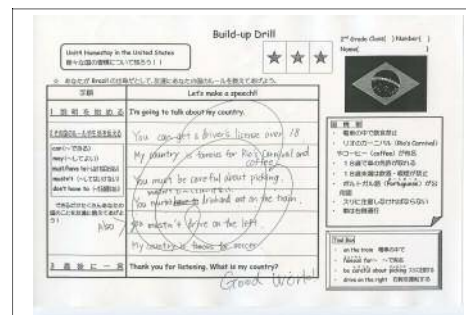
授業では、副教材の取扱いやワークシート、評価等について各コース担当で共通理解し実践してきた。ワークシートは、同じコースの中でも生徒個々の習熟度に応じた学習と支援が進められるように工夫してきた。また、小テストや授業の復習の機会として、英宅1日1ページを行っている。その他に、学習における生徒の成果物等は展示することで、学習の賞賛を行い、お互いの意欲付けにもなるようにしてきた。



【標準コース：学び合い】



【基礎コース：個に応じた支援】



【ワークシート】



【コミュニケーション活動】

3 生徒個々の基礎的・基本的な力を高めるための取組（スキルアップタイム）

本県が行っている「基礎・基本」定着度調査の結果から、本校生徒の実態として、数学の通過率が県と比較して例年低いことが課題としてあげられてきた。また、標準学力検査の分析においても同様に「数と式」の領域が例年通過率が低いことが課題としてあげられてきた。そこで、下記に示す「スキルアップタイム」を設定し取り組んできた。このスキルアップタイムは、数学の計算力の向上のための手だての他に、家庭学習の習慣化や学習の仕方を身に付けるねらいもある。

(1) 時間設定と流れについて

本校では、毎朝始業時前に朝読書の時間を設定している。週末金曜日の朝読書の時間を「スキルアップタイム」の時間と設定して、以下の流れで取り組んできた。

【スキルアップタイムの流れ】

- ① 係が、各学級で問題プリントを全員に配布する。
 - ② 10分で解答・採点までを行う。
 - ③ 5分で不正解の問題の補充を受けたり、やり直しを行ったりする。（教師に質問したり、生徒がお互いに分からない問題を聞き合う時間）
 - ④ 記録用紙（「スキルアップタイムの歩み」）に結果を記録する。問題は宅習帳に貼り付け、家庭学習で復習して、提出する。
- ※ 担任・副担任は学級に入り、支援と見届けを行う。



(2) 問題について

スキルアップタイムでは、右に示す形式で問題を出题してきた。作成は、数学科で行った。問題の構成は、「加減乗除の基本問題と複合問題」「分数計算」「小数計算」「図形」を継続して6題、生徒の学習状況に応じた問題を4題の計10題で作成してきた。

数学スキルアップタイム（第11回）平成29年6月3日（金）
 ()年 ()組 ()番 氏名()

(1) $87+35$	(5) $-5 \times (-8)$
(2) 86×3	(7) $(4a-3b) - (2a+2b)$
(3) $6+2 \div 4$	(8) 次の数直線()の中の単位で表しなさい。 0.5 km (m)
(4) $\frac{7}{12} \div \frac{1}{3}$	(9) 分母が6、5、2、3を最小公倍数に
(6) $12 \div (\frac{1}{3} - \frac{1}{4})$	(10) 六角形の内角の和を求めなさい。

【スキルアップタイムの問題】

スキルアップタイムの歩み

回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
(1) 正答															
(2) 不正解															
(3) 不正解															
(4) 不正解															
(5) 不正解															
(6) 不正解															
(7)															
(8)															
(9)															
(10)															
(11)															
(12)															
(13)															
(14)															
(15)															
(16)															
(17)															
(18)															
(19)															
(20)															
(21)															
(22)															
(23)															
(24)															
(25)															
(26)															
(27)															
(28)															
(29)															
(30)															
(31)															
(32)															

1回～5回
文章問題が間違えることが多かった。計算はよく解けている。

【スキルアップタイムの歩み】

(3) 評価について

生徒には、毎時間「スキルアップタイムの歩み」に各小問ごとの結果を記入させた。また、5回ごとに自分の結果を振り返らせ、自己分析を書かせることで、自分の伸びた点（できるようになった問題）など変容に気付かせたり、自分がこれから努力しなければ



【補充・やり直しの時間（教師の支援、学び合い）】



ならない課題に気付かせたりして意欲も高められるようにした。教師は、スキルアップタイムでの生徒の取組の様子やスキルアップタイムの歩みの記録から、生徒の変容や生徒のつまづき、弱点を把握することで個別指導等、事後指導に生かせるようにしてきた。また、宅習帳に貼り付けた問題は、週末課題として取り組ませ、その見届けも行ってきた。

III 研究の成果と課題

1 学力検査の結果から

- 「基礎・基本」定着度調査の結果から県との比較で、前年に比べてマイナスの教科が減少してきた。
- 全国学力・学習状況調査の結果から県、全国との比較で、国語A、国語B、数学Aで伸びが見られた。
- 「基礎・基本」定着度調査の結果から県との比較で、マイナスの教科の課題として、2年生が「思考」、3年生が「知識・理解」の観点が挙げられた。「思考」では、段階を踏まえた練習をさせ、「知識・理解」では、少人数指導等について研修を深め、改善・工夫をしながら、生徒個々に確実に知識を定着させるための取組が必要である。
- 全国学力・学習状況調査の結果から県、全国との比較で、数学B（主として活用）がマイナスであった。今後は、積極的に応用問題に取り組ませたり、取り組ませる上での支援を工夫することで、活用する力を伸ばす必要がある。

【「基礎・基本」定着度調査(数値は平均通過率)】

対 象		国語	社会	数学	理科	英語
現3年生 (平成21・22年度)	1年次(県比較)	-1.5	-6.0	-4.8	2.3	3.1
	2年次(県比較)	3.0	0.2	-6.0	-0.1	2.7

対 象		国語	社会	数学	理科	英語
現2年生 (平成22年度)	本 校	76.6	57.8	66.7	65.5	74.6
	県比較	3.5	-5.9	1.8	-0.2	0.7

【全国学力・学習状況調査(平均通過率との比較)】

		国語A		国語B		数学A		数学B	
		H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22
平成21年度・ 22年度の比較	県	-1.3	+1.6	-1.4	+1.9	-1.0	+1.5	+1.5	-0.3
		+2.9		+3.3		+1.0		-1.8	
	全国	-2.2	+0.7	-1.2	+1.0	-2.6	-2.0	-1.3	-2.8
		+2.9		+2.2		+0.6		-1.5	

2 学習習慣の確立と学習意欲の向上のための取組から

- アンケート結果から、生徒の意識が向上しており、朝読書や授業でも落ち着いた様子で臨む姿が見られるようになった。
- アンケート結果や学習計画表から、家庭学習における意識は向上しているが、時間の確保等習慣化が見られない生徒がいる。学習計画を進める上でより細かな支援や家庭との連携が今後必要である。

【学習指導の充実と学力向上についてのアンケート
(全学年対象, 数値は4段階評定の平均値)】

項 目	平成21年7月	平成22年3月	比較(評点差)
① あなたは、チャイム着席ができていますか。	3.4	3.7	+0.3
② あなたは、授業の忘れ物をしていませんか。	3.1	3.3	+0.2
③ あなたは、与えられた課題をきちんとやって授業に臨んでいますか。	2.9	3.0	+0.1
④ あなたは、授業には真剣に取り組んでいますか。	3.1	3.2	+0.1
⑤ あなたは、家庭学習の時間(90分)を確保しようと努めていますか。	2.7	2.9	+0.2

3 学力向上を目指した授業づくりから

- 各教科での小テストの継続的な実施や支援により、学習意欲の向上が図れたり、語彙力等の基礎学力の向上に結びついたりした。
- 国立教育政策研究所のアンケート結果から、数学科における少人数指導により学習に対する意欲の向上が見られる。

【国立教育政策研究所アンケートから(現3年生対象)】

項 目	平成21年と22年の比較
1 数学の授業が楽しみである。	29.5 → 47.7
	+18.2%
2 数学の勉強をしているのが楽しいからである。	15.9 → 34.1
	+18.2%
3 数学の学ぶ内容に興味がある。	34.1 → 43.2
	+9.1%
4 数学でよい成績をとっている。	11.4 → 25.0
	+13.6%
5 数学はすぐわかる。	13.6 → 22.7
	+9.1%
6 数学は得意科目のひとつだと思う。	9.1 → 15.9
	+6.8%

- WESTメソッドでのペアやグループでの活動を通して、生徒間でお互いに教え合ったりする等学び合う姿が見られるようになってきた。
- WESTメソッドを意識した授業づくりに取り組むことで、教師間でも学習課題の設定や生徒に自分の考えをもたせるための工夫等、授業づくりに対する意識が高まった。
- 小テストや授業の復習が家庭学習に結びついていない生徒も見られる。今後は、授業と家庭学習のつながりを更に強めるための工夫が必要がある。
- 各教科の取組の中で、授業を通して自分の考えを導き出したり、自分のことばで分かりやすく相手に伝えたり、まとめたりする力の育成が課題として挙げられた。今後も更に授業での探究する (Explore)、広げる (Spread) の過程を充実させていく必要がある。

4 生徒個々の基礎的・基本的な力を高めるための取組 (スキルアップタイム) から

- 生徒が、補充・やり直しの時間にお互いに教え合ったり、教師へ積極的に質問したりする姿が見られるようになってきた。
- スキルアップタイムの歩みから、計算を苦手とする生徒の正答率が上がってきている。
- スキルアップタイムの歩みから、過去に正解していた類題でケアレスミスする生徒が少なくない。今後、更に学習の仕方を身につけるように工夫する等、これまでの取組を継続・発展させて基礎・基本の定着を図っていきたい。

【参考文献】

「中学校 学習指導要領解説 総則編」	(ぎょうせい)		
『『活用力』を育てる授業の考え方と実践』	(図書文化社)	2008年	安彦忠彦
「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」		2010年	秋田県美郷町立千畑中学校

《研究同人》

校長 池水 秀行	教諭 久士目 真弓	養護教諭 田中 めぐみ
教頭 濱畑 昭成	教諭 二木 直志	事務主幹 小野村 伸一
教諭 河野 享子	教諭 森高 美由樹	司書補 松田 春美
教諭 北原 誠	教諭 高橋 洋二	教諭 小山田より子
教諭 清藤 千尋	教諭 孝 憲 一郎	主事 平石 豊子
教諭 木佐貫 舞子	教諭 牟田 正己	学校教育支援員 山本 智子
教諭 國生 裕彦	教諭 秋元 千賀子	SSW 井之上 洋一
教諭 武田 美和子	非常勤 宝楽 エツ子	SC 小田 奈緒美

《旧研究同人》

校長 中峯 健一郎	教諭 西 正 悟	教諭 萩原 春奈
教諭 池田 勝也	教諭 東 博 志	養護教諭 樋渡 順子
教諭 池之上 信子	教諭 吉 永 望	SSW 節 政 玲子

